

外科シニアレジデントプログラム

1. 外科の特色とスタッフ紹介

当科では、消化器疾患、乳癌、下肢静脈疾患を中心に手術しています。当院は臨床研修病院としての歴史は浅いのですが、近年臨床研修に特に力を入れています。当科でもレジデントに多くの症例を経験させることを目標においており、レジデントの希望にそったオーダーメイド研修が可能です。たとえば、将来消化器外科を専門にしない救命救急医を目指すレジデントでも受け入れは可能です。シニアレジデントとして研修中に当院の心臓血管外科、呼吸器外科をローテートし、外科専門医資格を取ることができます。他の有名臨床研修指定病院に比べて各科の敷居が低いので、レジデント各自のモチベーションに応じての研修が可能です。積極的でチームワークのとれる人材を求めています。

消化器病センター

所長	高橋 裕	日本外科学会指導医	日本外科学会専門医
		日本消化器外科学会指導医	日本消化器外科学会専門医
外科部長	山口 哲哉	日本外科学会指導医	日本外科学会専門医
		日本消化器外科学会指導医	日本消化器外科学会専門医
副部長	武田 亮二	日本外科学会認定医	
副部長	坂田 晋吾	日本外科学会認定医	日本外科学会専門医
		日本乳癌学会認定医	検診マンモグラフィ読影認定医
医員	西崎 大輔		
後期研修医	吉田 和世		

2. 研修期間 3年

ただしローテート希望には柔軟に対応

3. 目標

■GIO

消化器外科、乳腺外科、一般外科領域全体を包括した専門医としての知識、手術技能、臨床判断能力、問題解決能力の習得のみならず、医学医療の進歩に合わせて生涯学習を怠らない態度、後進の指導を行う能力、ならびに患者の身体だけでなく心の痛みも理解できる人間性を養う。

■SB0

1. 診療を行う上で医の倫理に配慮する習慣を付ける。
2. 外科診療における適切なインフォームド・コンセントを得ることができる。
3. 周術期の管理のみならず術後の療養、生活指導が適切に行える。
4. ターミナルケアを適切に行う。

5. 後進の医師に対して実地医療に関わる種々の事項について指導が行える。
6. 文献・学会講演等の教育資源を活用できる。
7. 消化器病学だけでなく、乳腺外科、消化器外科の進歩に合わせた生涯学習を行う。
8. NST に関する知識をもち、患者の病態や疾患に応じた栄養管理ができる。
9. 栄養管理に必要な手技、処置および合併症に対する処置ができる。
10. 施設内カンファレンスに出席し、積極的に討論に参加する。
11. 個々の症例につき、EBMに基づいた診療を行う。
12. 医学、医療の進歩に遅れぬよう学術集会、教育集会に積極的に参加する。
13. 学術集会、学術出版物に、症例報告や臨床研究の結果を発表する。
14. クリニカルパス、ケアマップを効率よく使用できる。
15. 腹部超音波診断が独力で実施できる。
16. 上・下部消化管造影検査が独力で実施できる。
17. 上・下部内視鏡が実施できる（希望者のみ）。
18. エックス線、CT、MRI、血管造影、術中胆道鏡、ERCP の適応を決定し、読影・診断できる。
19. 検査、処置、手術を個々の症例の病態に合わせて選択できる。
20. 消化器系・一般外科系の救急処置ができ、緊急手術の適応が判断できる。
21. 後期研修終了時には外科学会専門医受験資格を取得する。

4. 方略

■LS1 On the job training (OJT)

入院患者数として 6~8 名程度受け持つ。

外科学会最低症例数と消化器外科学会必要症例数を満たすよう手術に参加する。

■LS2 勉強会

Journal Club：外科や消化器に関する英語文献を週 1 回抄読する。

■LS3 学術活動

京滋外科集談会（年 3 回）での発表

京都南西症例検討会（年 3 回）での発表、出席

日本外科学会・日本消化器外科学会・日本臨床外科学会・日本内視鏡外科学会いずれかでの発表

研究会・学会での報告テーマの論文執筆

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
AM	手術	手術	手術	9:30～部長回診	手術	手術
PM	手術	手術	16:30～消化器 合同カンファレンス＝ 外科・消化器内 科・放射線科合 同	16:00～ NST 回診	手術	手術

5. 評価 EV

自己評価：日本外科学会、日本消化器外科学会が作成した修練到達度にチェックシートにしたがって、自己の経験症例をデータベース化する。

データベースは指導医が確認・評価する。